

ウィズあい 大垣



学びあい、教えあい、支えあい、助けあいみんなで一緒に男女共同参画社会づくりを進めましょう

2022年（令和4年11月）第24号

コロナ下において、就業や生活面など特に女性に大きな影響があり、男女共同参画の視点の重要性が再認識されました。また、国際社会においては、SDGs（持続可能な開発目標）のゴール5で「ジェンダー平等」が掲げられ、性別に関わらず、平等に責任や権利や機会を分かち合い、あらゆる意思決定において女性と男性が同等の機会を享受すべきことが目標とされています。このような中、ジェンダー平等について考えてみませんか。令和4年度大垣市男女共同参画フォーラム※で講師をしていただいた百々雅子様に寄稿していただきました。※3ページに記事を掲載しています。

百々 雅子 元山梨県立大学教授（社会学・ジェンダー学）

プロフィール：お茶の水女子大学哲学科を卒業後、外国銀行に就職。その後、大学院で社会学を学び、平成12年山梨県立大学短期大学部助教授着任、平成29年同大学看護学部教授定年退職。令和2年度から市の女性人材育成事業のセミナー（NPO法人くすくす企画運営）において、ジェンダーをテーマとした講義をしている。



～ 特別寄稿 ～ 「女性運動から男女共同参画へ」

アイスランドの女性運動

突然ですが、アイスランドという国をご存知ですか。今世界が競っているジェンダーギャップ指数（GGI）という男女の格差を表す数値によると、格差が世界で一番少ない、男女の平等が進んだ国です。世界経済フォーラムという組織が毎年この数値を算出。その順位では、今年日本は116位、今年の120位より4つ「改善」していますが日本の直前に並ぶ国を見てみると、ガマラ、タジキスタン、ブルキナファソ。読者諸氏のご感想いかがですか。この数値には政治、経済、健康、教育という4分野での男女格差が、例えば日本で格差の大きい政治では議員などの意思決定者に女性がどれだけいるかが、反映されます。

冒頭のアイスランドは北欧の人口約36万人の小国。大垣市の2倍強の人口のこの国は、ここ13年間に渡りGGI1位を継続中です。閣僚の半分近くが女性。伝統的には日本と同様、男女の役割が決まっています、男性が政治の場を始め外の仕事を担っていたのですが、その後、女性たちが運動をして平等を実現してきた経緯があるのです。

1974年のある日、国中の女性たちが、仕事や家事を止めて首都に出て集会などに参加するストライキを敢行。9割の女性が参加したらしく、その日男性たちは女性がいないと1日も過ごせないことを知らされたといえます。その後もこのストライキは何度も続いた結果、男女平等に必須な同一労働同一賃金、育休などの法制度化で、女性が外の仕事を担えるようになり現在があるということです。

男女の平等を求めた女性運動の歴史

アイスランドだけではなく、これまで多くの国で女性たちは、平等に向けた運動をして政治や社会に働きかけてきました。もちろん男性も普通選挙や労働運動など男性間での平等を叶えるために闘ってきたのですが、ここでは女性の現在に繋がるこの百数十年の運動を大まかに見ていきましょう。

運動の歴史は通常3つの波（4つの分類もある）に分類されています。第1波は、19世紀末から20世紀にかけての参政権や財産権などを中心とした社会の法制度を目指すもの。第2波は、1960年代から70年代にかけてのこと。アメリカでの運動が注目されましたが、ヨーロッパや日本にも運動は

広がり、ここでは社会の具体的平等、たとえば男性は仕事、女性は家庭といった男女の役割への異議を公にしたり、女性の人工妊娠中絶※の合法化への主張がなされたりしました。

上記の運動は白人の女性を中心としたものだったため、1980年代以降は白人以外の女性やLGBTに代表される性的少数派の人々、また先進国でなく発展途上国の女性たちからの多様な立場の声が上がりました。現在ではSNSを活用した#MeToo運動などにも変化しています。これが第3波以降の動きです。

このように書くと平和裏に推移したと誤解されるかもしれませんが、女性たちの運動は、たとえば参政権を求めた第1波の運動で、イギリスの女性たちは投獄され文字通り命がけで闘いました。日本では戦後に参政権を認められましたが、明治時代からの主張が戦中の言論弾圧の下に沈み、敗戦を経て最終的にはGHQの指示で実現した底流には、女性たちの粘り強い意志と闘いがあったのです。彼女たちが現在の投票率の低さを知ったら、さぞ悲嘆や憤りを感じることでしょう。

ここまで、女性たちは平等の扱いを求めて時に命を賭けて闘ってきたことを見てきました。この流れと現在の男女共同参画とはどう繋がっているのでしょうか。先に見た男女格差を減らすGGIの順位を各国が競って上げようとしているのはなぜなのでしょうか。



女性運動から男女共同参画へ

結論を先に言えば、現在の男女共同参画の考え方は、女性たちが運動によって獲得してきた平等への一つ一つの礎が、今の地球市民の目指す方向に連なっているからです。たとえば、世界の政治や経済分野での意思決定者は、これまで男性たちがやってきた長時間労働とそれを家庭で支える女性の同じく長時間の家庭内労働には賛同せず、両性の仕事と家庭の両立を目指す方向へと舵を向けています。

長時間労働は、職場でうつ病の主因になり自殺者まで出ています。過剰なまでの仕事優先のあり方が、働く人を根本から支える家庭のあり方を歪めてしまうことは、帰宅したお父さんのかつての言葉に表されています。「飯、風呂、寝る」と。

私たちが健康に働くためには、帰宅後のゆったりした時間とのバランスが大切です。また働くということは、お金になる仕事だけを指しません。お金にならない地域の仕事、家事育児、介護など家庭の仕事も生活に不可欠な仕事です。様々な仕事の中に男女がいることが、目指す方向を偏らせずに決める上で大切なのはいうまでもありません。

男女共同参画の考えには仕事の仕方だけでなく、男女の固定的な枠に留まらない職業選択や生き方の自由があることも忘れてはいけません。その上でのGGIの地位向上でなければゴールを見誤ることになるでしょう。

※ 女性の人工妊娠中絶 その頃日本では、すでに経済的条件を理由にはあるが中絶が認められていて、女性の権利の点では進んだ国であった。一方当時のアメリカで女性たちが闘い取った中絶権は、今年最高裁が違憲判決を出して新たな反対運動を生み出している。

男女共同参画週間パネル展示

in ハートリンクおおがき

内閣府の「男女共同参画週間」(期間:令和4年6月23日~29日)に合わせ、男女共同参画社会について広く理解を深めるためパネル展示を行いました。内閣府啓発ポスターや全国女性の参画マップ、市主催事業「男性の家事応援講座」や「女性人材育成事業」の紹介などを展示しました。



令和4年度 大垣市男女共同参画フォーラムを開催 6月25日

市は、大垣市男女共同参画推進連絡協議会との共催により、「男女共同参画週間」に合わせ、男女共同参画フォーラムを開催しました。令和2、3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となり3年ぶりの開催でしたが、多くの方にご参加いただきました。

映画「ビリーブ 未来への大逆転」を鑑賞後、トークイベントを実施し、百々雅子講師から映画の時代背景や女性の権利拡張運動などの話を聞き、現在の男女共同参画社会の実現について参加者皆で考えを深めました。



～ 映画「ビリーブ 未来への大逆転」～



1970年代のアメリカを舞台に、弁護士ルース・ギンズバーグ（のちにアメリカ最高裁判所女性判事として活躍）が史上初の男女平等裁判に勝利した実話に基づくストーリー

～ 参加者の感想 ～

ジェンダーが叫ばれる時代になりましたが、大変な歴史があることを知り、正義のために立ち上がることの困難さを感じました。/ 差別をなくすための努力は、皆の理解や協力を得ることが必要だということが伝わり感動しました。/ 自分の前を歩いて行ってくれた女性のためにも自分自身のためにも、コロナ禍などで後退することなく一歩一歩前へ。/ 力がわいてきました。/ （男女平等の）意識は、短い期間に随分変化したが、社会も自分自身の意識もまだまだ改善の余地はあると改めて思いました。/ 凛とした主人公の姿に感動

男性の育児応援講座

マジックパパのワイルド遊び 8月27日開催

マジックパパ代表 和田のりあきさんを講師に迎え、子どもと一緒に、新聞紙やタオルなど身近な物を使った発育に役立つ遊びを学びました。講師自身の子育て経験のお話も聞き、参加者からは、「とっても楽しかった」「親目線でも話をして頂けたので、とても参考になった」などの感想がありました。



タオルで綱引き、ヨインョ!
力の入れ方を覚えてだんだん上手になるよ。

パパの肩車でぐらぐら、
体幹を鍛えるよ。



タオルで飛行機ブーン、
バランス感覚も養うよ。

2022年10月1日 \ 「産後パパ育休（出生時育児休業）」がスタート /

男性の育児休業が取得しやすくなりました！

◆子が生まれた直後の時期に柔軟に育児休業を取得できるよう、新たに「産後パパ育休（出生時育児休業）」が創設されました。子の出生後8週間以内に4週間まで、2回に分割して取得できます。1歳までの育児休業も、2回に分割して取得できるようになりました。

◆詳しくは、
厚生労働省
ホームページ



☆ Welcome Baby Class ☆ 開講中

男女共同参画センター
登録団体提案事業

～紡ぐ 家族が新しくなる時、助産師が寄り添います～

「岐阜県助産師会西濃地区」の企画・運営により、妊娠中や妊娠希望のカップルを対象に赤ちゃんを迎えるための準備講座を実施しています。「コロナ下において、孤独や不安を感じる妊婦さんや産後のお母さんが多く、そんな女性に寄り添いたい」という助産師さんの熱い思いで企画されました。

- 講座の内容 ・胎児人形をだっこしてみよう。
- ・胎児体験・カップルコミュニケーションを考える
 - ・オリジナルフォトフレーム作り
(体験の様子を撮影し写真をプレゼント)

代表の高橋助産師からのメッセージ

いのちを授かることは奇跡。その命を育む妊娠、出産、育児があなたにかいものになってほしいと願っています。助産師はいつでも寄り添います。

今後の開催日：1月15日（日）、3月5日（日）
各開催日の1か月前より申込開始。

申込はこちら→



熱心に沐浴を学ぶプレママ・パパ。「もう一度やってみたいです」と復習も。きっと、赤ちゃんも気持ちよく沐浴できますね。



袋に入って胎児体験。外から触れたり声掛けしてもらって安心な気持ちに。胎児はどんな気持ちなのかなあ。



「女性に対する暴力をなくす運動」 (毎年11月12日～25日)



市では、暴力の根絶への願いと「ひとりで悩まず、まずは相談してください。」というメッセージを込めて、パープル・ライトアップを実施します。運動期間には、全国のランドマーク等でも実施されますので、パープルの願いを見つけてみてください。(令和3年度は全国約342か所で実施)

大垣市ライトアップ期間：11月17日～25日（日没～23時）場所：大垣駅南街区広場・北口広場噴水・市役所庁舎東側



昨年度のライトアップの様子

- DV相談ナビ ☎#8008
- DV相談プラス (メール、チャット相談)



～がん検診を受けていますか～ 大垣市保健センターからのお知らせ

日本では、生涯に2人に1人ががんにかかり、3人に1人が、がんで亡くなっています。がんは早期の段階では自覚症状がなく、進行して初めて異変を感じることも少なくありません。

診断と治療の進歩により、一部のがんは早期に発見し、治療を開始すれば治る病気となりました。自覚症状のない時から、がん検診を定期的に行うことが重要です。

検診会場では感染症対策を行っていますので、コロナ下であっても「受診控え」することなく、がん検診を受診しましょう。

医療機関や検診機関、保健センターなどでご都合の合う日に受診できます。一部の検診はウェブでもお申込みいただけます。詳しくは、大垣市保健センター（TEL75-2322）へ



ウェブ予約

大垣市男女共同参画に関するメール配信サービス

男女共同参画センター「ハートリンクおおがき」等で実施する男女共同参画に関する講座やイベントなどの情報を配信しています。ぜひご登録ください。



◆編集・発行 大垣市市民活動部

まちづくり推進課 男女共同参画推進室

電話：0584-47-8549

Eメール：danjo@city.ogaki.lg.jp

—法務省 人権啓発キャッチコピー— 「誰か」のこと じゃない。